

¡ HOLA ! PARAGUAY

～ パラグアイからこんにちは！～

2019.11 vol. 6



日々の活動 ～酪農家さんの知恵～

こんにちは！ San Juan del Paraná 市で活動を行っている山田です。

パラグアイでは、最高気温が 40℃ほどまで上がる暑い日が増えてきました。それに伴い、牛に群がる虫も一気に増加してきています。特に、牛に悪さをする代表的な虫として知られているのが「Garrapata(ガラパタ)」と呼ばれる吸血ダニです。吸血は数日から数週間にわたるため、多数寄生による貧血やストレス、体重や乳量の減少が大きな問題となります。先日は、親牛と共に放牧地に夜間だけ放された生後 1 週間の子牛が、ダニの吸血によりたった一晩で瀕死状態になってしまうという考えられないような事件も起こりました。牛の身体についてダニはひとつひとつ手で取り除いていかなければなりません。そのため吸血ダニ対策は、この時期酪農家さんがやらなければならない大きな仕事のひとつです。



ダニのような問題に対しては寄生虫防除剤や駆除剤を使用するのが最も効果的ですが、パラグアイの酪農家さんは市販の薬を使用しないオリジナル治療を行う人も多いです。例えば子牛の下痢。日本では、下痢止め剤や生菌剤を投与するのが一般的な治療方法だと思います。ですが、こちらのある酪農家さんは、グアバの葉を煮詰めた液を下痢の子牛に飲ませ、約 3 日で完治させていました。また、下痢治療として生卵を飲ませる酪農家さんもいるようです。その他にも、食欲のない牛に卵の殻を与えると食欲が復活するなど、酪農家さんは独自の知恵をたくさん持っています。